

修士論文（要旨）  
2018年1月

災害時の地域支援における臨床心理学的専門性に関する検討

指導 池田 美樹 先生

心理学研究科  
臨床心理学専攻  
216J4003  
尾崎 光紗

Master's Thesis(Abstract)  
January 2018

A Study of Clinical Psychological Expertise in Community Support during a Disaster

Arisa OZAKI

216J4003

Master's Program in Clinical Psychology

Graduate School of Psychology

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Miki IKEDA

目次

第1章	はじめに .....	1
第2章	研究 I .....	1
第3章	研究 II	
3.1	目的 .....	1
3.2	方法 .....	2
3.3	結果 .....	3
3.4	考察 .....	4

引用文献

## 第1章 はじめに

今日、災害時におけるこころのケアの重要性が社会的に注目されている。「こころのケア」ということばは、阪神・淡路大震災以降、盛んに用いられるようになり、その後国内外で多くの自然災害が発生し、DMAT (Disaster Medical Assistance Team) のような医療チーム、こころのケアチーム、保健チームなどの迅速な派遣体制が整備されてきている(中野, 2013)。このように、災害支援におけるさまざまなチームには、医師や看護師、保健師、精神保健福祉士など、多職種が関わっており、臨床心理士も、特に災害支援における地域支援の領域で、その一端を担っている。

このように、従来の研究から、災害時における地域支援では、地域の公衆衛生や、精神保健サービスにかかわる臨床心理士、看護師、保健師、などの各種専門職が活動していることが報告されている。しかし、活動形態や支援内容は多種多様であり、これまで行われてきた地域支援の課題、特に臨床心理学的専門性に対するニーズが明らかにされていないといえる。

そこで、研究Ⅰでは、文献レビューを行い、臨床心理士が実際に行った災害支援活動に着目し、そこから得られる課題や展望を明らかにすることを目的とする。

また、研究Ⅱでは、災害時の地域の公衆衛生、精神保健サービスを担った各種専門職(臨床心理士、看護師、保健師、精神保健福祉士など)の支援内容や、他職種との連携、臨床心理学的専門性があったかどうかを検討し、災害時の地域支援において、臨床心理学的専門性が求められる側面を明らかにすることを目的とする。

本研究で得られた知見から、今後の災害支援において臨床心理士が行う支援内容や役割が明確になり、より専門性を生かした支援を行う上での基礎資料となることが期待される。

## 第2章 研究Ⅰ：災害時における心理職支援に関するシステマティックレビュー

研究Ⅰでは、災害時における臨床心理士の行う支援を概観し、特に支援場所、支援内容に注目すると、①避難所・仮設住宅入居者への支援、②コミュニティへの支援、③支援者への支援の3つの軸に整理することができた(尾崎・大坂・池田, 2016)。

## 第3章 研究Ⅱ：災害時の地域支援における臨床心理学的専門性に関する検討

### 3.1 目的

研究Ⅱでは、災害時の地域の公衆衛生、精神保健サービスを担った医師、看護師、臨床心理士などを対象に、その支援内容や、他職種との連携、臨床心理学的専門性があったかどうかを検討することを目的とし、それにより、災害時の地域支援において、臨床心理学的専門性が求められる側面を明らかにする。

研究Ⅰにて、災害時に臨床心理士と共に医師や看護師が同チームとして活動していることがわかったため、臨床心理士だけではなく、他職種と比較することにより、他職種と共通する臨床心理学的専門性と臨床心理士独自の臨床心理学的専門性が明らかになり、今後、

臨床心理士が災害支援を行うにあたって必要な、臨床心理学的な知識や技術が明確になることが期待される。

## 3.2 方法

### 3.2.1 インタビュー調査の手続き

災害時の地域支援を行った経験を有する医師，看護師，臨床心理士を対象とし，桜美林大学大学院心理学研究科臨床心理学専攻修士課程2年の筆者1名が，全ての調査対象者に対して60分程度の個別の半構造化のインタビュー調査を行った。標本数は，臨床心理士8名（男性3名，女性5名），医師1名（男性1名），看護師2名（女性2名）の計11名（男性4名，女性7名，平均52.1歳，SD=9.85）である。

### 3.2.2 質問項目

本研究で用いた質問項目は以下の通りである。

- (1) デモグラフィックデータ
  - ①基本的属性  
年齢・性別・同居家族の有無
  - ②職業  
職種・勤続年数・雇用形態・活動時の所属
- (2) 支援形態
  - ①支援時期・期間と頻度
  - ②支援形態（単独支援・チーム支援）
  - ③支援場所
  - ④支援への関与形態（直接的・間接的）
- (3) 支援内容
  - ①支援活動の内容
  - ②被災地における他職種や他組織との連携
  - ③被災地のニーズ
  - ④ニーズに添った支援が提供できたか
  - ⑤調査対象者が思う，臨床心理学的援助とその達成度，
  - ⑥普段の業務との一致度
- (4) 災害支援に対する感想
  - ①災害支援のために特別に意識したこと
  - ②良かったこと
  - ③その他付け加えたいこと

以上，大きく4つの項目に分け，調査対象者から情報を収集した。

### 3.2.3 分析方法

本研究では，災害時における地域支援の臨床心理学的専門性の有無を検討し，さらに，災害時の地域支援において，臨床心理学的専門性が求められる側面を明らかにすることを目的とし，生成した概念同士の関係に注目することを意図し，質的記述的分析を行った。

### 3.3 結果

災害支援活動内容と他職種・他組織連携についてカテゴリ間の関係性を検討した結果を Figure 1 に示した。

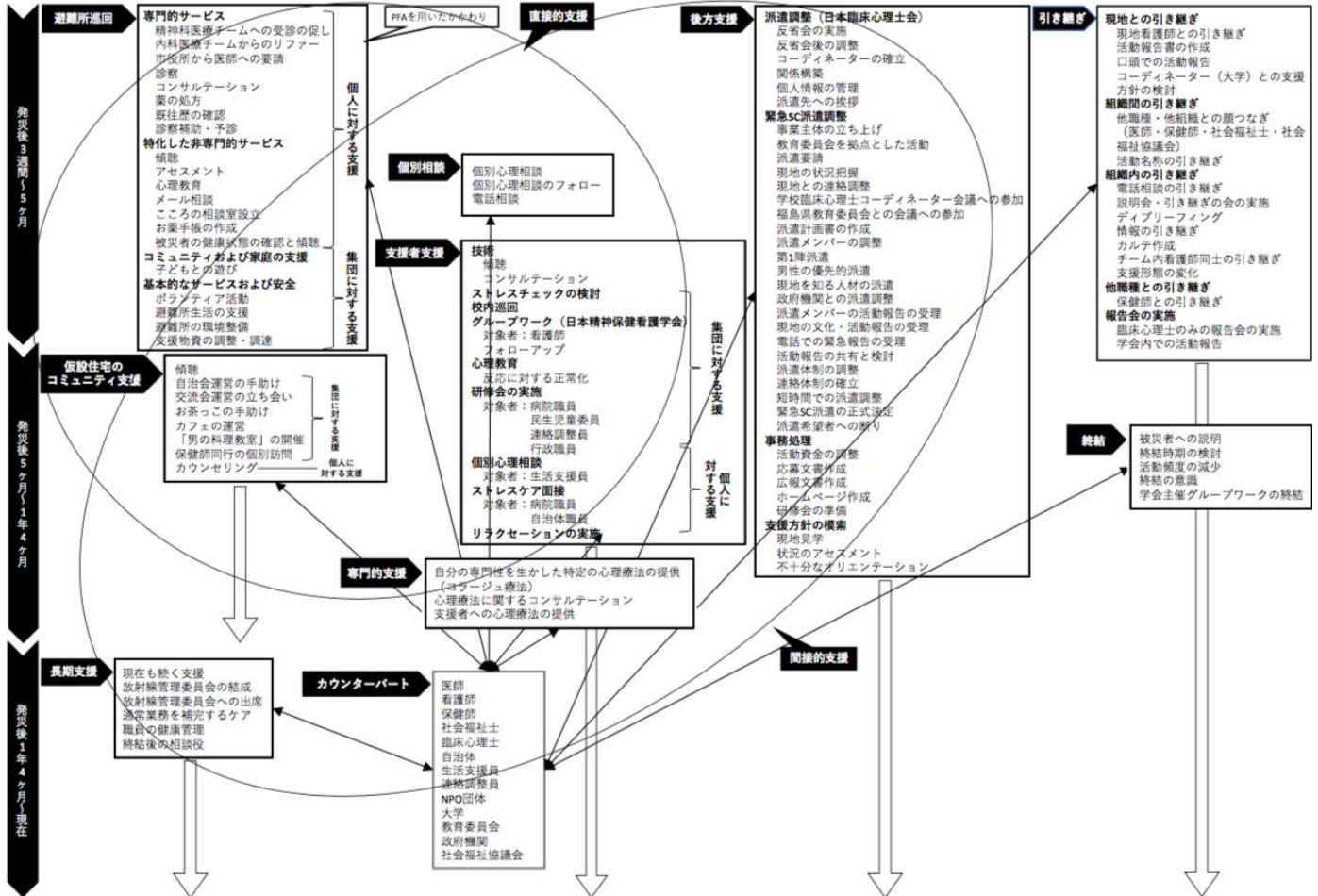


Figure 1 災害支援活動内容と他職種・他組織連携の関係

本研究の結果，活動時期は，発災後3週間から5ヶ月，発災後5ヶ月から1年4ヶ月，発災後1年4ヶ月から現在までの3つの災害フェーズに分けることができた。発災後3週間から5ヶ月では，主に【避難所巡回】が行われていたことがわかる。さらに，個別相談や支援者支援が行われ始めた時期でもある。次に，発災後5ヶ月から1年4ヶ月では，主に【仮設住宅のコミュニティ支援】が行われていたことがわかる。さらに，専門的支援もこの頃に行われていた。最後に，発災後1年4ヶ月から現在では，【長期支援】が行われており，本調査実施時も支援が続いていた。また，【後方支援】は発災後3週間から現在まで継続的に行われている。

### 3.4 考察

以上のことから、災害時の地域支援における臨床心理学的専門性は、支援活動を概観し、被災地の精神医学的、心理社会的、避難所生活におけるニーズのアセスメントを行い、ケースワークを行う上で用いられる視点であることが明らかとなった。このような臨床心理学的専門性の視点は、職種を問わず用いることができ、どの災害フェーズにおいてもニーズがあると考えられる。一方で、臨床心理士の普段の主な業務である個別のカウンセリングを行った事例が少ないことから、個別のカウンセリングに対するニーズは少なかったことが推測される。そのため、臨床心理士の役割も、『災害・紛争時等における精神保健・心理社会的支援の介入ピラミッド』（IASC, 2007）の第1層基本的サービスおよび安全に当てはまる、＜避難所生活の支援＞、＜避難所の環境整備＞、＜支援物資の調整・調達＞から、第4層の専門的サービスに当てはまる、＜精神科医療チームへの受診の促し＞、＜診察補助・予診＞までの全ての活動を担う必要があるだろう。したがって、災害時の地域支援における臨床心理士の役割としては、支援活動を概観し、被災地のニーズのアセスメントを随時行い、ケースワークを行いながら活動するという、臨床心理学的専門性の視点を常に持つことであると言えるだろう。

さらに、現在も支援が続いていることから、中・長期的に継続して支援を提供する必要があると考えられ、現地との連携や他職種・他組織との連携が欠かせないだろう。外部支援者が提供する支援が、果たして被災地にとって有益なものとなり得るのかも含め、アセスメントしていくことが重要である。今回の調査では、長期支援は＜終結後の相談役＞や＜放射線管理委員会への出席＞、＜通常業務を補完するケア＞など、間接支援が主であった。このことから、発災から時間が経過することによって変化する被災地のニーズをアセスメントしながら、支援形態も変化させていくことも考える必要があると言える。

## 引用文献

Inter-Agency Standing Committee (2007). IASC Guideline on Mental Health and Psychosocial Support in Emergency Settings. *Geneva*.

中野則子 (2013) . 災害時におけるメンタルヘルスケアと地域保健福祉活動 日職災  
医誌, **61**, 100-104.

尾崎光紗・大坂隆之・池田美樹 (2016) . 災害時における心理職支援に関するシステ  
マティックレビュー 桜美林大学心理学研究, **7**, 33-41.